序論　自己言及する文化人類学者　李　仁子　1

第１章　対話する文化人類学　三田　牧　10
—ベラウ国立博物館における展示作成の体験から—

第２章　フォールドへの介入、フィールドからの介入　金谷 美和　36
—「実践ショック」の乗り越え方—

第３章　「ネイティヴ」と「ノン・ネイティヴ」の対立をこえて
—先住ハワイアンと移民にルーツをもつ人類学者の実践から—
城田　愛　49

第４章　外国人労働者としての外国人研究者の役割　縄田 浩志　73
—サウディ・アラビア西南部レイダ自然保護区の環境保全に関わるアクターの事例分析から—

第５章　異質性への着眼からみえる移民研究　王　柳蘭　94
—日本の華人からみた北タイの雲南系華人社会—

第６章　フィールドに向き合い、フィールドに関わる
—「他者」の眼、「自己」の眼、人類学者の眼—
李仁子・三田牧・金谷美和・縄田浩志・王柳蘭　107

おわりにかえて　複眼的な文化人類学へ　李　仁子　142